

平成19年度実施事業 事業評価シート

事業名:	ふれあい雪かき運動交付金	2-35
・運営の方法(1:直営、2:民間委託、3:補助、4:その他)	複数回答可	3
・事務の分類(1:自治事務、2:法定受託事務)		1

担当部課	保健福祉部高齢者支援課	直通電話	72-6121
担当部長	鎌田 英暢	担当課長	沢田 茂明
		担当者	天浦 正美

1 事業のアウトライン			
(1)事業概要及び交付金額等の積算根拠	地域に住む一人暮らし高齢者や障がい者等の冬期間の安全確保のために、住宅周辺の除雪を行う町内会等に経費の一部を助成する。		
(2)事業開始年度	平成7年度	(3)事業終了年度	未定
(4)総合計画での事業体系	テーマ等	2 健康であわせに暮らせるまち	
	施策項目(大)	(2)高齢者福祉の充実	
	施策項目(小)	魅力あるまちづくりの推進	
	施策コード	20203	

2 事業の内容	
(1)事業の目的 何のために	市内に居住する高齢者及び体の不自由な者の冬期間における身の安全と生活路の確保、福祉の増進を図ることを目的とする。
(2)目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	高齢者や障がい者の積雪による生活不安を解消し冬期間の在宅生活を維持すること、並びに実施者として町内会等には地域における福祉意識の高揚。
(3)事業の方法 どんな手段を講じるのか	「ふれあい雪かき運動」を行う町内会等に対し経費の一部を助成する。 組織維持費 20,000円(1シーズン)、活動費 4,000円(1世帯1シーズン)、
(4)19年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	
(5)事業の背景・社会状況・他の類似事業など	冬期間の高齢者等の安全確保の面では他に在宅高齢者生活支援事業の「除雪サービス事業」もある。
(6)事業の立案や実施における協働の視点	「ふれあい雪かき運動」の実施は、町内会等地域組織が主体的に行っている。

3 事業に投入した行政資源					
	区 分	H17	H18	H19	H20予算
(1)直接事業費(千円)		712	768	846	1,080
(2)その他の間接経費(千円)		0	0	0	0
(3)従事正職員の人件費(千円)		432	1,243	897	
総事業費((1)~(3)の合計:千円)		1,144	2,011	1,743	
事務に従事した正職員延べ人数		0.05	0.15	0.10	

4 交付団体の予算・決算 (単位:千円・%)												
収 入	区 分	H17	H18	H19	H20予算	支 出	区 分	H17	H18	H19	H20予算	
	市補助金等(A)	712	768	846	1,080		運営費	937	822	846	1,080	
	町内会等負担金											
	計(B)	712	768	846	1,080		計	937	822	846	1,080	
(A/B)	100.0	100.0	100.0	100.0								

5 事業活動の結果 (単位:千円・%)					
活動指標名		H17	H18	H19	H20
実施団体数(団体)	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定
	実績値	9	8	10	
	達成率	-	-	-	
実施回数	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定
	実績値	71	86	108	
	達成率	-	-	-	
	目標値				
	実績値				
	達成率				

6 事業の成果		(単位:千円・%)			
成果指標名		H17	H18	H19	H20
除雪延べ戸数(戸) 目標値は、計画時の延べ戸数	目標値	1,007	1,009	980	1,000
	実績値	858	1,055	1,018	
	達成率	-	-	-	
ボランティアの参加人数(人)	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定
	実績値	899	1,126	913	
	達成率	-	-	-	
	目標値				
	実績値				
	達成率				

7 事業の観点別評価		担当課長が評価します。	
(1)必要性		(4)有効性	
ア 市民ニーズ	1 大きい 2 普通 3 小さい	2	ア 施策との関連
イ 市の関与	1 行政にしかできない 2 民間等でもできる 3 民間等でやるべき	2	イ 成果
(2)効率性			ウ 事業内容
ア コスト削減	1 不可能である 2 難しい 3 可能である	2	ウ 事業内容
(3)公平性			(1)~(4)の評価ポイント合計
ア 受益者負担	1 不可能である 2 難しい 3 可能である	2	総合評価の参考にしてください。
			7~11 A or B
			12~15 B or C
			16~21 D or E
			14

8 課長評価		担当課長が評価します。	
(1)平成19年度事業の総合評価		地域に住む支援の必要な人に対して、自主的な活動として本事業に取り組んでいる町内会の活動を支援する上では必要と考えるが、事業の実施団体数が伸び悩んでいる。	
C	評点の意味 (A:極めて良好、 B:良好、C:可も不可もない、 D:問題がある、E:大きな問題がある)		
(2)今後の方向性・課題		地域高齢者の冬期間の快適な生活を確保し、地域での助け合い・支えあう意識の醸成の一つの手段としては有効ではあるが、市内全域の取り組みにはまだまだ期間が必要。この運動を全域に広めながら地域福祉の促進への足がかりにするために、一層の地域町内会等への理解・協力を要請していく。	
(3)平成21年度の方向性			
*:担当課長	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持	*	
	縮小方向		
	統合		
	休・廃止		

ここまで担当課長が記載した上で、パブリックコメントを実施し、市民意見を募集します。

9 課長評価に対する市民意見

10 部長(市長)評価		課長評価に対する市民意見を踏まえて、部長職(もしくは市長)が評価します。	
(1)平成19年度事業の総合評価		増加する独居高齢者などを地域で助け合い・支えあうシステムづくりは、重要で、特に冬期間の安全と快適な生活を確保する本事業は、一つのきっかけづくりとしては非常に有効であり、適切に実施している。	
C	評点の意味 (A:極めて良好、 B:良好、C:可も不可もない、 D:問題がある、E:大きな問題がある)		
(2)今後の方向性・課題		実施地区数が伸び悩んでおり、拡大に向けた働きかけを積極的に行う。	
(3)平成21年度の方向性			
:担当部長(もしくは市長)	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持		
	縮小方向		
	統合		
	休・廃止		
	実施団体・地区の拡大を図る。		